

発行所

株式会社 FPシミュレーション

大阪市中央区平野町3-1-10 Tel:06-209-7678

編集発行人：税理士 三輪 厚二 Fax:06-209-8145

### 労働生産性の分析

Q：従業員1人当たりの付加価値額を見るには、どうすればよいでしょうか。

A：会社（組織）の体質や社員の仕事の効率がわかる「労働生産性」を分析してみてください。従業員1人当たりの付加価値生産額を知る指標ですので、組織風土の活性度や、社員1人1人が効率的に稼ぐ仕事をこなしているかどうか判定できます。

(1)付加価値を出す

$$\text{付加価値} = \text{売上高} - \text{売上原価}$$

(2)労働生産性を出す

$$\text{労働生産性} = \text{付加価値} \div \text{平均従業者数}$$

#### 【分析】

- (1)従業員数は、1日8時間労働を基準に1人と考えるのが通例ですから、4時間勤務のパートは0.5人とすればよいでしょう。
- (2)小数精鋭社員からなる知識集約型や高度組立型の企業は、人材の活性化が肝要ですから、人づくりの投資を惜しまないようにしましょう。風通しのよい組織とやる気の起きる職場環境が、労働生産性を高める基本です。
- (3)近代化設備やコンピュータ利用による生産性改善の対応にも遅れないようにして、ソフトとハードをうまく組み合わせましょう。
- (4)労働生産性の平均は、次のようになっています。（単位 百万円/年間）
 

製造業…10	建設業…11	卸売業…12
小売業… 8	飲食業… 4	

